


平成 31 年 2 月 5 日

ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～

第8次(災害支援・復興)助成金申請書

【団体情報に関すること】

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

ふりがな	かわべちくまちづくりすいしんきょうぎかい		
団体名称	川辺地区まちづくり推進協議会		
代表者職名	会長	ふりがな	よこみぞ さとる
		代表者氏名	横溝 哲 
ふりがな	くらしきし まびちょう かわべ		
団体住所	倉敷市真備町川辺		
電話番号		FAX	
設立年もしくは活動年数	平成 18 年設立		
スタッフ数	有給スタッフ _____ 名・無報酬スタッフ _____ 名・ボランティア等 120 名		
団体HP(あれば)			
FBページ(あれば)			
CANPAN登録	<input checked="" type="radio"/> なし ・ あり (星 っ) 【団体ID: _____】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	事務局長	ふりがな	かとう よしこ
		担当者氏名	加藤 良子
郵送物送付先住所	倉敷市片島町		
担当者電話番号 (極力携帯番号)		担当者 e-Mail	

(事務局記入欄)

事務局記入欄 受付日・受付者	事務局記入欄 CANPAN 登録	有 ・ なし (予定 月 日頃)
-------------------	---------------------	------------------

申請事業の内容 三代目ふれあい夏祭り

事業種類・内容 該当する活動に○をつけてください。	① 災害支援・復興活動(真備エリア) 2. 災害支援・復興活動(県内各地)
事業名 (もしくは事業概要)	三代目ふれあい夏祭り
活動(予定)期間	平成 31年 7月 27日 ~ 平成 年 月 日
活動(予定)場所	川辺小学校運動場または川辺分館駐車場
受益者数	直接受益者 (1700世帯 名) 間接受益者 (名) ※いる場合
<p>事業の必要性(背景)と目指すゴール(目指す状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状や支援対象者の状況(支援対象者との現在の関係性についても必要に応じて記入) ・事業を実施することで被災地や被災者がどのような状況になることを目指すのか <p>・川辺地区はほぼすべての世帯が水没し、支援者も被支援者もすべて被災者である。すでに、新築、リフォーム等で川辺地区に戻った人もいるが、1割強にすぎない。地区民の9割が戻ってきたいという意思はあるが、みなし仮設や借り上げがだ仮設または知人宅に住んでいる多くの住民は、被災前のような地域のつながりや住民同士の絆を求めており、昨年行われた数々のイベントの参加者数の多さにも表れている。住民同士が顔を合わせることによって心が和むひと時をすごしてもらいたい。</p> <p>・地区住民の集いの場として、川辺まちづくりが毎年行っていた最も大きなイベントの一つが夏祭りである。昨年は水害のため実施できなかったが、今年は夏祭りの復活を目指したい。</p> <p>・まちづくりが毎年買い揃えていた道具や物品がすべてなくなってしまったため、それを新たに購入することは難しくレンタルも含め、備品購入の支援をしていただけたらありがたい。</p>	
<p>事業の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのようなことをいつ(回数等)やるのか <p>夏祭り 7月27日(土曜日) 1回</p> <p>内容としては ステージ バザー(フードコート) 盆踊り お楽しみ抽選会</p>	

事業の実施体制

・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など

実施主体： 川辺地区まちづくり推進協議会

協力団体： 川辺地区社会福祉協議会 環境衛生協議会 愛育委員会 栄養改善協議会

婦人の会 幼・小学校PTA 川辺分館管理組合 消防団 すみれ会

川辺復興プロジェクトあるく

傘踊り フォークダンスグループ など

事業実施後の展望

・助成期間後も活動を継続す場合はその内容や展望

・助成期間をもって事業終了の場合は、その後の支援対象者の状況

来年以降も継続して行いたい 内容は多くの地区住民の方が集えるような工夫を考えていきたい。

その他

・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

地域住民が自分たちの手で協力し合いイベントをするということに意義があると思う。

できる人ができるところからやっという意識の高揚がまちの復興につながっていくのではないかと。

地域の基盤である町内会についても壊滅的であるが、それを立て直していこうと先日も説明会を行ったが、多くの参加者が集い、関心の高さがうかがえた。その中でも、今度来るべき地震に備えて地域の絆づくりは必須であるという意見をいただいている。

※この用紙に収まらない場合は、別紙企画書など添付ください。ただし、概要についてはこのページ1枚にまとめてください。